

会 議 記 録

会議名称	第3回社会教育委員の会議
日 時	平成28年7月22日(金) 午前10時02分～午前11時58分
場 所	東棟6階 教育委員会室
出席者	委員／山口、藤川、天野、朝枝、岩崎、多田、内山、笹井 区側／生涯学習スポーツ担当部長、生涯学習推進課長、スポーツ振興課長、中央図書館次長、社会教育センター所長、教育連携担当係長（社会教育センター社会教育主事）、社会教育推進担当係長（社会教育主事）、管理係長、管理係主査、社会教育センター主査
配付資料	<p><配付資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第2回社会教委員の会議 会議録(案) 2 夏休み子ども向け催し情報カレンダー 2016 3 中央教育審議会「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」(答申) 一抜粋一 4 学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議「近年の中教審における考え方と社会教育を巡る諸課題について」 5 今後の生涯学習事業の展開に向けた検討(意見概要) 6 セシオン杉並平面図及び施設使用状況 7 今後の生涯学習事業の展開に向けた検討に関する主な意見の整理 <p><参考資料>(委員のみ配付)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 杉並区の教育 平成28年度 2 すぎなみ教育報 No.221 3 夏休みスペシャルコーナー 世界の貝 4 感覚・体感フィールド展 5 サイエンスワークショップ2016 藍染めの化学 6 ロボット教室 7 すぎなみ郷土史物語 8 パネル展来てみて発見! ミャー★ジウムすぎなみ 9 夏休み! フェスティバル ENJOY! オリンピック・パラリンピック 10 すぎなみ小・中学生未来サミット
会議次第	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 会議録の確認について (2) 夏休み子ども向け催し情報カレンダーについて (3) 中央教育審議会、学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議情報 <p>II 協議事項、</p>

	<p>(1)今後の生涯学習事業の展開について ○身近な地域施設等における生涯学習事業展開の可能性</p> <p>(2)今後の進め方について ○今後の生涯学習事業の展開に向けた主な意見の論点整理</p> <p>Ⅲ その他 ○次回日程について</p>
--	--

(意見要旨)

- 副議長 おはようございます。議長が所用で遅れるとのことで、先に進めます。新しく委員が加わられたので、一言ご挨拶をお願いしたい。
 (委員 あいさつ)
- 副議長 では、生涯学習スポーツ担当部長からご挨拶を一言お願いしたい。
 (生涯学習スポーツ担当部長 あいさつ)
- 副議長 ありがとうございます。では資料確認を事務局からお願いしたい。
 (社会教育推進担当係長(社会教育主事) 説明)
- 副議長 はい。では、子供向け催し情報カレンダーについての説明を。
- 社会教育推進担当係長(社会教育主事) つくりはじめて4年になる。夏休み前に杉並区の全小学校児童に配布しているが、夏休みに入ってから参加、体験できるものの紹介という観点でまとめている。今回は科学の取り組みをわかりやすくする工夫をした。ご意見を伺わせていただければありがたい。
- 委員 欲しいと思っていたが、初めて見た。すごくわかりやすくいい。
- 委員 中学校に配付してはいないのか。
- 生涯学習推進課長 中学生が参加できるものや展示などにも良いものがあるものの、配布は小学校全校児童をのみを対象ということになった。
- 委員 私の中学校では、ボランティアシップということで5年間の取り組みがあり、小学校の盆踊りや祭りの手伝いをしている。中学生が気軽にボランティアできる場合もあるので、ぜひ周知したらどうかと思う。また、私立学校にも配布していないとのことだが、せめて掲示依頼してはどうか。
- 副議長 今後ご検討いただければと思う。報告事項等は以上でよろしいか。では、次の今後の生涯学習事業の展開について。
 (社会教育推進担当係長(社会教育主事) 説明)
- 副議長 ありがとうございます。すぎなみサイエンスフェスタは来場者も多くとても高い評価を得ているが、今後の展開でもっと多く実施の予定は。
- 生涯学習推進課長 2月の終わりに開催し、2,000名を超える来場者があった。全てが行政主導ではなく、科学教育関係団体の協力のもと実行委員会を立ち上げて開催した。催しに対する区民のニーズが合致し多くの来場者があったと考えている。が、年度内に2・3回実施というのは難しい。
- 副議長 小・中学校の現場にサイエンスフェスタの体験を出前していくということでも良いと思う。
- 委員 それも早速させていただいている。サイエンスフェスタで日時計をつくるワークショップがあり、小学校の土曜授業で連携を取ればと社教セ

- ンターに問い合わせ、5月に実施した。非常に参考になり、とてもいい催しだと思った。ちょうど理科の授業と内容が連携できてよかったと思う。
- 副議長 外からの力で教育の質を上げるといのは非常に効果がある。現場の先生だけでは、決められたフォーマットのカリキュラムで精いっぱいなので、新しいことを取り入れることに体力と気力が要る。サイエンスフェスタがサンプルになれば、先生方が見に行けて、授業の中に取り込められたらなど授業の新しい形が見える。次回は、ぜひ、出展団体へのアクセス方法や年間何回できるかなどを来場者に伝えられる仕組みをつくると思う。
- 生涯学習推進課長 サイエンスフェスタでは、子どもたちに体験をしていただいただけでなく、様々な関係団体の方とのネットワークができていますので、ご相談をいただければ関係団体を紹介することも可能だ。ただ、科学教育の生涯学習分野の拠点は、社会教育センターだけでこなしていけるのかどうか。物理的な制約や内容、もっと学びたい時の手だてがあるのか。フェスタで関心を持った方を、さらにその上に導くメニューがまだ用意されてもいない。こうした課題に対して新たな拠点の中で、情報提供や科学に関心のある人が集まる場もつくっていかうという構想がある。
- 副議長 次の段階に行く際には、区を超え都へ、結果的に人材育成となれば国の力を強くすることにもつながり、そういった意味では全国区だと思う。その次をめざせる仕組みになれば、他とも連携できるいい機会だと思う。
- 委員 セシオン杉並でやるのは見本市的なもので、やりたい人が興味を持ったら事務局側で情報提供するという仕組みなど、地域展開するともっと発展するのではないか。
- 生涯学習推進課長 サイエンスフェスタが終わった後に、実行委員長や各団体に集まっただけで、次への課題を聞き、意見交換をしている。前回は、実行委員会を立ち上げる期間が短かったり、余りにも忙し過ぎて、ほかのブースの見学ができなかったりという意見が出た。お互いのブースを見合うのも必要だとは思うが、この形に固定されずに、どう発展させ進めていくのかを考えていかなければならない。
- 副議長 外部評価のようなものを加え、限られたキャパであれば、新しいものを入れるなど、新陳代謝を良くして将来に向かって持続的な形で発展を目指し、模索していければ良いと思っている。
- 委員 参加団体が忙し過ぎてお互いに見られなかったことに対する具体的な改善策はあるか。
- 生涯学習推進課長 午前中に準備、午後からスタートだが、その始まる前の時間にホールで行うの開会式行事や表彰式にあわせて集客力のある講演者を呼んでチャンスを作ればそれぞれが見られると思ったが、事前配付チケットとの関係などもあって難しかったかと思うので工夫したいと考えている。
- 副議長 では、次の身近な地域施設等における生涯学習事業の展開の可能性に移りたい。
- (社会教育推進担当係長 (社会教育主事) 説明)
- 副議長 資料の中に、公民館の減少が全国的という記載があるが。
- 議長 文部科学省の3年に一度の調査で、公民館等の施設の数が増減し、図書館や博物館は増えている。公民館に専門職員が少ないなど、十分に活躍できる条件になく、杉並区だと地域区民センターや集会所など代替施設がたくさんできたことも関連はしている。戦後は、各家庭の生活課題が地域の課

題にそのままなった。みんな満足に食べられない時代だったから何とかしなくてはと感じ、地域の産業の振興など、皆で解決することによって、個々人の生活を豊かにしようとする、そのための施設であった。しかし、今の時代は高齢者と若者との意識が異なり、問題をシェアできない。また、趣味や教養的な健康などテーマ性がある活動を少人数でシェアして公民館を利用していたところもあり、それならカルチャーセンターでもできることではないかと思われがち。では、どうすれば良いのか。個人的には、若い人たちや子育て中のお母さんが家に閉じこもりがちになるなど、社会と接点を持ちづらくなっている状況の中で、それを後押しできる施設が必要で、そうした点から、公民館のやることは何なのかを考えれば答えはあると思っている。

○副議長 なるほど。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） では、ここまでの議論と、行政が課題にしなければならないことを整理し「今後の生涯学習事業の展開に向けた検討に関する主な意見の整理」という資料を作成したので、これをもとにご意見をいただきたいということで進めさせていただきたい。

まず、前年度の次世代型科学教育の拠点とその事業展開等についての議論を整理し、今年度は、生涯学習分野全般で地域の人たちが集い、つながりながら事業展開することを考えられないかご検討いただいているが、来館型から出前型に変えていく中で、その成り行きを見極めつつ来館が困難だった人たちと一緒に充実を求めていく可能性があるというご指摘があった。

学ぶ場をつくり、つなげていくというコーディネーションを社教センターが担ったからこそその部分であり、事後にも違った展開につながる手がかりの提供となった。しかし、それだけで終わらず、出前先の人々との関係において、相乗効果も期待できるということであったため、これを、科学のジャンルにこだわらず、幅広く私たちの暮らしや生活、地域を良くすることにひろげ、課題が多様なだけに様々なものに適用することがあれば、広がりや可能性が考えられるのではないかということになった。

次に、新たな出前型、ネットワーク型の拡充の意義や課題を整理した。超高齢化が進行し、社会と接点を持ち続けるための学習支援のあり方の見直しが必要とされるが、生涯学習は誰でも参加できる気楽さがあるものの、事業の展開や工夫を考えると、人の交流を活発にする仕掛けが必要で、その工夫は、社会教育センターの事業の中にも見られ、すぎなみ大人塾「だがしや楽校」を杉七小で展開した試みは、杉並区教育ビジョンにある「横のつながりを大事にする」ことにつながり、役割として大事だというご指摘だった。

しかし、社会教育センターは、高円寺地域区民センターという集会施設との複合施設であるため、実際の社会教育センターの持ち分は一部であり、社会教育センターが事業を行う場合に、セシオン杉並の施設全体を使った実施には、施設使用上に限界がある。セシオン杉並の施設を活用して社会教育事業の実施を充実させることは、高円寺地域区民センターや集会室の区民利用もあり、調整も困難を極めることから、場をひろげるのが難しい状況にある。これに平成27年度から、次世代型科学教育の拠点としての事業が上乘せとなっており、必要なバックヤードや諸室の整備が集会室の改修等による解決に至れないため、限界がある事業展開となっているのが率直な状況で解決しなくてはならない状況がある。

そこで、社会教育センターの役割・機能に関して、次世代型科学教育の拠

点づくりを課題にしていることがあるので、これを手がかりにはどうかと考えた。旧科学館をなくし出前型により展開を図っているものの、先ほど申し上げたハードの必要性として、貸し施設での実施では、使用しようとする水・火・油等を使うのは断られるため、やりようがなく、それができる施設は欲しいという科学教育団体からの希望もあるため、今後の拠点づくりの検討を進めていくことを課題としている。将来的には、新たな拠点に整備される場所を使って機能を高められるように空間を用意していくことを考えていき、この社会教育センターが機能麻痺のような状況に陥ることなく拡充、充実を図ることを考えなければならない。ならば、科学のみならず、様々な生涯学習事業にも広げ、地域とつながっていく事業のやり方を拡充することは可能になるのではないかと考えた次第である。

しかし、だからセシオン杉並が要らなくなるとか、社会教育施設でなくすとかではなく、ホールや展示室等の現施設は維持しつつも、これからの生涯学習の事業展開に沿った社会教育の環境整備とそのための機能の拡充とを図っていきたいという考えでまとめている。こうした考え方に対してご意見をいただきたい。

- 副議長 ありがとうございます。今のご説明に対してご意見は。
- 委員 郷土博物館や図書館などの教育施設は、そうしたつどう場に特化したデリバリーへの対応にはつらいものがある気がした。
- 委員 社会教育センターを、次世代の科学教育も含めた社会教育の拠点にして、地域区民センターと分けていくのもありか。
- 生涯学習推進課長 セシオン杉並は、どうしても必要な施設であるが、科学教育を展開するにせよ、今後改修して対応するのは難しい。したがって、新たな施設再編で生み出された施設も視野に入れ、交通便利性の高いところに拠点を設け、現在の社教センターとその拠点とで連携させることができないか。生涯学習事業も出前型・ネットワーク型で展開できるのであれば、その機能も拠点の中に盛り込めないだろうかと思った次第である。
- 委員 ハコづくりには予算、時間、労力もかかる。サイエンスフェスタのようなことは、全てをセシオン杉並ではなく地域区民センターや学校授業の一環にして、コンパクトにすれば実施できるのでは。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 確かにそのとおりだが、そのためにも必要な資材を保管できる倉庫に限界があり機材の維持すら難しい状況を何とかしたい。また、一般の集会室で時間単位に区切られてしまってまとまった形で押さえることも難しい中では、科学の実験などもやりづらい。専用スペースがあれば、出前事業と併せ持たせられるので、今の状況下では、厳しい側面の打開策になるのではということで提案させていただいている。
- 副議長 わかりました。では、時間が来てしまったので、一旦ここで終わりにして、次回、さらに検討を進める方向でよろしいか。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 9月に入って日程調整をメールで相談したい。
- 副議長 わかりました。では最後に課長、あいさつを。
(生涯学習推進課長 あいさつ)
- 副議長 ありがとうございます。議長からもぜひ一言。
- 議長 ありがとうございます。皆さん、どうもお疲れさまでした。